

男は生産・技術、 女は後始末？ —原爆と原発のあいだ—

2016年

日時
Date

9月26日(月) 13:15~15:00 (S4限)

※一般教養科目 GES094「S 2:「災後」の人間・社会・文化」とのコラボレーション開講、受講生以外も参加自由です
September 26th (Mon), 2016 13:15~15:00

場所
Place

国際基督教大学 本館 213号室

H-213, International Christian University

JR中央線武蔵境駅南口より、小田急バス「国際基督教大学(境93)」行き終点下車 *全てノンステップバスにて運行されております

言語
Language

日本語

Japanese

参加費
Fee

無料・予約不要

Free

講師
Lecturer

加納 実紀代 (女性史・ジェンダー史研究者)

KANO Mikiyo



【講師プロフィール】加納 実紀代(かのう みきよ)

1940年ソウル生まれ。45年広島で被爆。京都大学卒業後、中央公論社勤務を経て、戦時女性史の研究会を結成し、『銃後史ノート』全18巻刊行。著書に『女たちの〈銃後〉』『ヒロシマとフクシマのあいだ』等多数。

司会・コーディネーター: 加藤恵津子 (CGS副センター長)

Cordinator: KATO Etsuko (CGS Vice Director)

原子力の「平和利用」推進と、原子力反対運動は、どのようにジェンダー別に展開されてきたか。

「ヒロシマ」後の日本の現代史の中に、東日本大震災後の社会を置いてみれば、

戦後と「災後」、原爆と原発、ヒロシマとフクシマの共通点が見えてくる。